

現地調査(後期)の概要報告

1 目的

復興の取組状況や課題を実地に調査し、総合的、専門的な見地から復興計画の進捗に関する意見をいただき、「復興実施計画(第2期)」の推進に反映させる。

2 実施日/訪問市町村

平成26年12月12日(金) / 大船渡市・釜石市

3 調査者(委員5名)

齋藤委員長、豊島副委員長、緒方委員、平山委員、若林委員

4 テーマ

『被災地における将来にわたって持続可能な地域社会の構築』

5 調査内容及び参集者等

(1) 大船渡市・陸前高田市で活動する若者との意見交換

『これからの三陸について』

[場 所] 大船渡地区合同庁舎分庁舎 会議室 [時 間] 11:00~12:00

[参集者] 及川 透子 氏 (FMねまらいんパーソナリティ)

黄川田美和 氏 (陸前高田まちづくり協働センター)

佐藤 優子 氏 (NPO愛知ネット 岩手・気仙事務局)

長谷川順一 氏 (なつかしい未来創造株式会社取締役)

(2) 大船渡市のまちづくり計画についての情報交換

[場 所] 大船渡地区合同庁舎分庁舎 会議室 [時 間] 12:00~12:30

[説明者] 大船渡市災害復興局土地利用課 課長補佐 金野尚一 氏

(3) 災害公営住宅住民との懇談

[場 所] 釜石市平田地区災害公営住宅 [時 間] 14:50~15:10

[相手方] 同災害公営住宅管理人 渡辺 様

(4) 釜石市・大槌町で活動する若者との意見交換

『これからの三陸について』

[場 所] 岩手大学釜石サテライト 会議室 [時 間] 15:30~16:30

[参集者] 君ヶ洞剛一 氏 (NEXT KAMAISHI事務局長)

下村 達志 氏 (フェリアス釜石事業課長)

芳賀 光 氏 (はまぎく若だんな会代表)

元持 幸子 氏 (NPOつどい事務局長)

6 主な意見

(1) 大船渡市・陸前高田市で活動する若者との意見交換

- 被災地の住民は「まずは建物(住居)が出来ないと、その後のことは考えられない。」という意識だが、**今のうちにその後のまちづくりについて、種をまいておく必要がある。**(黄川田氏)
- 地域住民にとっては、様々な事業計画策定の前に、マスタープランづくりにおいて**自分たちの声が反映されることが重要。**(黄川田氏)
- ハード整備については専門家じゃないと議論できないが、**ソフト面については行政も住民も同じ土俵で話が出る。**行政と住民が一緒になって意見交換しながらまちづくりを行っていければ良い。(黄川田氏)
- 「地元には仕事がない。」と起業した若者もいる。人口減少対策のひとつでもあり、**起業家への支援**をどんどん実施してほしい。(佐藤氏)

ウラへ続く→

- どうしたら地元で人が定着するのか考えていかなければならないが、まずは**職業観について高校生に醸成を図っていくことが必要**と考えている。そういったカリキュラムも検討して欲しい。（佐藤氏）

(2) 釜石市・大槌町で活動する若者との意見交換

- 行政は、**住民に入り込んで、コミュニケーションを積み上げる**ことが大事。（君ヶ洞氏）
- 岩手は、仙台以南と比べて物流・流通に日数が余計にかかるが、「それでも欲しい」と思ってもらえるよう、水産物は**量よりも質を高めていかなければならない**。（君ヶ洞氏）
- 需要と供給、**やる気のある人とそれを欲する人を繋げるのが行政の役目**だと思うが、自分が頑張らないと、人の力も期待できないと思っている。（君ヶ洞氏）
- 仮設店舗で商売を行っているが、本設の場所が決められない。まちづくり計画や用地取得などとも絡むが、**仮設店舗における時間的なリミットを提示してもらわないと、見通しを立てることができない**。（芳賀氏）
- これまでは、ハード整備だけに目が向いてきた。これからは、**今後の暮らしに対して住民の目が向いてくる**ことだろう。（元持氏）

7 委員からの主な意見

- 計画の進行管理だけではなく、**復興計画や実施計画に盛り込まれていないような、若い人たちの取組をサポートしていくことが必要**。実際に若い人たちはもう始めている（豊島委員）
- ハード整備が計画に沿って進められているが、一方で、**被災地の将来について考えていかなければならない**。支援が地元の自主的な動きを妨げることがないように、バランスを取りながら、**県において、こういった形で行動力のある若い人の支援が出来るか、議論していきたい**（平山委員）
- 広域連携によるまちづくりは大変という印象を受けたが、三陸全体で進めていかなければならない部分もある。**これからは広域振興局の役割が大きくなる**と感じた（若林委員）
- **広域的な将来のビジョンが必要**。県として市町村のカベを取り外す仕掛けを考えていかなければならない。そのひとつのツールとして、三陸鉄道の活用があるが、単なる交通機関としてではなく、**復興まちづくりの中における三陸鉄道の位置づけを明確にする必要がある**（斎藤委員長）

○若者との意見交換（大船渡・陸前高田）



○平田地区災害公営住宅（釜石市）



○災害公営住宅住民との懇談



○若者との意見交換（釜石・大槌）

